

**図書館におけるボランティア制度の確立**  
〔提言〕

平成 22 年 3 月 20 日

富士見市図書館協議会

## 0 . はじめに

現在、日本全国で数え切れないほど多くのボランティアが協働の視点をもって幅広い活動を展開し、それぞれの分野で不可欠の位置を占めている。富士見市内にあっても、人材バンクやNPO団体等多くの団体が有意義な活動を展開している。しかしながら個々の場面では、活動の余地があるにもかかわらず、あまり市民の参画がすすんでいない分野があるのも事実である。

図書館では、市民ボランティアの参画により、より充実した市民による市民のための生涯学習機関、社会教育施設として発展していく可能性を秘めている。社会の財産である知識や技能をもった市民は、その量的豊富さや質的多様さで、ボランティアを巡る概念の転換点の主役となっていくのではなからうか。また電子図書といった新分野の誕生で、活動の幅もより一層広がるものとする。

今回の提言では、これらの背景を踏まえて、「将来図書館が市民にとってどのような方向にすすんでいってほしいのか」をまとめてみた。

ここで述べたことを、図書館や教育委員会などでぜひ建設的かつ前向きに検討し、実現につなげていってほしいと協議会委員一同期待している。

## 1 . 図書館におけるボランティア制度導入の趣旨

図書館にボランティアを“制度として”導入するにあたっては、  
図書館を支援するボランティア組織の確立  
各々のボランティア活動の内容の拡大・充実と広報  
というふたつの大きな柱の下で検討をすすめたい。

### 1) 指定管理者制度とボランティアの係わり

富士見市の図書館にあっては、平成21年度から鶴瀬西分館で指定管理者制度（PFI事業）が導入され、平成22年度には中央図書館、ふじみ野分館における導入が決定した。今後のボランティアのあり方を論ずるにあたっては、運営主体である民間事業者との係わりのなかで検討する必要がある。

今まで維持されてきたサービスは継続されるのか、事業の拡大は図れるのか、今後も原則無料を貫く保証はあるのか、ボランティア活動が具体化した場合、活動費等はどうなるのか、そして導入の結果予測される運営上の“メリット”は明確に説明されるのか等々考えておくべきことは少なくない。

### 2) 図書館におけるボランティアの体系化

図書館協議会では、過去に市民との協働や使いやすい図書館、応援したい図書館について答申してきた。具体的な内容も多数含まれているので、この答申内容を尊重した上で、図書館とともに引き続き検討を継続し実現をめざす必要があると思われる。いずれにしても、課題は一挙に解決する類のものではなく、また時代とともに生じたり変化したりするものである。検討にあたっては、図書館が抱

える個々の課題を個別に調整していくというよりは、全体を俯瞰し、体系的な視点から捉えていくことがより有効な事業運営につながるものとする。

## 2. 図書館におけるボランティア活動の推進

この件に関しては、次のとおり具体的な提案をさせていただく。

### 1) 図書館ボランティア指針作成

図書館業務は、指定管理者制度を導入することが決定しているが、以前と比べて図書館業務が質量とも複雑化しているのが現状であり、将来においても想像にかたくない。

ボランティアの拡充を図るにあたっては、「図書館ボランティア指針」を作成するものとする。

### 2) 図書館ボランティア人材センター（仮）の設立

「図書館ボランティア人材センター（仮）」を設立することにより、責任感ある人材を一般から広くかつ恒常的に募集できる。図書館ボランティアを希望する人に対して、作業内容を提示したうえで、アンケート形式により“提供できる”、“希望する”内容を確認する。

募集にあたっては、各種広報や図書館だより、ホームページ等に掲載し、市内や近隣の学校（小・中・高、大学）等にも資料配布等を通じてアプローチしていく。またNPO団体の設立も視野に入れて、有給のボランティア職員雇用も考えていく。

### 3) ボランティアの養成

既存のボランティアグループに加え、新規のボランティアグループや個人ボランティアの養成が望まれる。図書館は、上記の図書館ボランティア指針に基づいて各分野で必要とされるボランティアを募集したり、各種研修会を実施したりして、図書館活動に組み入れられるようグループや個人を養成していく。

### 4) ボランティアの広報活動

図書館応援隊ともいべきボランティア活動は、広く市民に知らせ、活動の内容を公開していきたい。このような広報活動はボランティアの一環として行うことが望ましい。

他のボランティアグループとの協働を行える環境やその協働活動の広報、また各ボランティア団体の活動状況なども互いにかかる環境作りが必要と考える。これにより、市内における各ボランティアの活動状況や協働のための連絡が自由にでき、図書館の各イベントなどにおいて、あらゆるジャンルのボランティアの参加が期待でき、図書館活動の活性化につながると思われる。

## 5) ボランティア活動従事者への支援

図書館ボランティア参加者の活動のために必要な支援、例えば、図書館へのアクセス(交通手段)の確保、活動時のアクシデントなどに対する保険、その他のフォローが不可欠である。

## 3. ボランティア制度確立後のあり方と具体的提案

### 1) ボランティア制度の方向性

図書館に係わるボランティアの参加について、より一層の広がりをめざすなら、個人でも気軽に参加できる体制の整備を行うことや“ゆるい連携”の仕方等を模索していくことも大切ではないかと思われる。

従来の「ボランティア」という名前にこだわらず、“図書館応援隊”的な発想で、新しく、親しみがあり、かつ楽しみながらできる活動分野があってもよいのではないかと、そうした発想・見地からまとめてみた。

以下に各委員の声をそのまま掲載。

#### a. 新しい発想で

従来の図書館では実現できなかったこと、図書館でこんなことをやっている、といった新基軸の企画を生むためにも、多方面からの知識・技術・アイデアが必要となってくる。

#### b. 長く続けて

参加者が気負いすぎることなく続けたい。活動意識が自然に市民(ボランティア)から湧き上がってくるようにスタートさせたい。

#### c. みんなで楽しく

一人が多くの作業を抱え込むのではなく、少しずつ多くの人が参加していけるような工夫をしていきたい。

#### d. 集まって

どのように組織するか。図書館の“枠”を超えた発想が生まれてもよいのではないかと。

#### e. 一緒に

図書館側から、市民のボランティア活動を援助するような体制をあらかじめ整備するよう計画する。ボランティア活動は、図書館のお手伝いではなく、図書館と市民の知的活動発露の場として“自主的”活動をする場であると意識できるかどうか大切。

### 2) 具体的提案について

以下は全国各図書館の活動事例を参照して作成したものであるが、この他にも新発想の作業内容が生まれてくることを大きく期待する。

#### < 職掌分類 >

##### ・ブック・ボランティア

書架整理・清掃、蔵書点検、図書製本・修理、地域文庫（自宅や集会所利用）、新聞切り抜き、絵葉書整理、地域文化資料整理、贈呈本整理、特殊資料整理、本の宅配サービス

##### ・ハンディキャップ・ボランティア

朗読サービス、音訳サービス、布の絵本製作、視聴覚資料確認、点訳、対面朗読、宅配（病院、自宅、学校、介護施設等）

##### ・キッズサービス・ボランティア

お話会（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、紙芝居）、映画会、ブックスタート、おはなし出前サービス（保育所・保育園、幼稚園、学校、施設）、16ミリ上映、託児サービス、スペース確保

##### ・企画・広報ボランティア

古本リサイクルの呼びかけ・集配、古本バザール、チャレンジ教室、会報（広報）製作、講習会開催（図書館ボランティア養成講座、朗読講習会、読み聞かせ講習会等）、押し花展、壁画ペインター、小物作り、イースターエッグ作り、初版本展、私の自慢の一冊展、自分史なんでも相談、図書館まつり、図書館公開事業への参加、研修会

##### ・館内・環境ボランティア

環境美化、誘導・受付、国際化サービス（外国籍市民に対する図書館利用サービス）、館内空間の整理、館内総合案内、ちょっと知りたいパソコン使用法、障害者に対する図書館利用支援、利用者環境整備、図書館見学等の案内

##### ・学校図書館ボランティア

図書館で行われているボランティア活動と同様のサービスを学校図書館においても行われるシステムを考える。学校に定期的に常駐できる制度も構築したい。

#### 4. まとめ

今回の提言を受け、図書館内でもその将来像を含め、今後の市民活動の拡充と活発化、図書館活動の充実、学校図書館の充実による読書習慣の定着、図書館と市民との協働の深化につなげられるよう、実現を期待するところである。

これを機に、前述の図書館ボランティア人材センター（仮）を基地として、各ボランティア団体と新規参加の個人が協力して活動するような横のつながりを図り、まとまりをもって指定管理者と連携できれば活動がより充実したものになると思われる。

ボランティア団体相互の協力により輪が広がり、また近隣のボランティアと協力することにより、無理のない活動で有意義な効果が得られるであろう。